

特別支援学級 算 数 科 学 習 指 導 案

1 単元 「かけ算（２）」

2 指導観

- 本単元は、乗法の意味の理解を深め、前単元で身に付けた性質やきまりを活用しながら 6 の段から 9 の段および 1 の段の乘法九九を構成し、具体的な場面で適用できるようにすることを主なねらいとしている。

具体的には、①既習の段の九九を構成した際の考え方をういて、6, 7, 8, 9, 1, の段の乘法九九を構成する。②乘法九九（6, 7, 8, 9, 1, の段）を唱え、具体的な場面で適用し、問題を解決する。③倍の意味について理解し、量の関係を倍を用いて表す。④九九表を用いて、乘法九九の構成を通して、乘法について成り立つ性質やきまりを理解することである。

本単元の考える内容の中心は、次のことである。

◎ 「乗数が増えると、積は被乗数の数だけ増える」というきまりや交換法則や分配法則、アレイ図などを活用して、乘法九九の構成の仕方について多様に考えることである。

また、発展的な学習として、九九表を使っていろいろなきまりを見つけて、九九の数範囲を越えたかけ算にも挑戦させる。このことを通して、これまで活用してきた乗法のきまりやかけ算九九の理解を一層確実にしながら、きまりを活用していくよさを味わわせたい。

これらのことは、以後の各学年で取り扱う乗法の意味の拡張の考え方に発展していくものである。

- 本学級には、2年生の弱視児童が在籍している。障がいの種類や程度、見え方は様々であり、視覚管理面で個に応じた配慮や支援が必要である。

学習の形態は少人数であるが、学習の内容によって一斉学習と個別学習の2種類の形態で行っている。※個の実態や支援については二枚目に添付

前単元「かけ算（１）」において、乗法の意味や答えの求め方及び2～5の段の乘法九九を構成し、それを通して性質やきまりについて学んできている。その中でかけ算の学習を楽しむ姿や意欲的に九九を構成したり、暗唱したりしようとする姿も見られる。

考えをつくる過程では、既習を駆使して、考えを図や式に表すことができるようになってきた。考えを共有する過程では、自分の考えを分かりやすく伝えることができてきたが、友達の発表と自分の考えとの違いやよさに気をつけて聞き、付加・修正することは十分とはいえない。

- 本単元の指導にあたっては、「かけ算（１）」で学習した既習事項をもとに、6, 7, 8, 9, 1の段の乘法九九を構成し、乗法の性質やきまりについて考えていくことを通して、考える楽しさを味わえるようにしたい。

導入においては、既習内容と未習内容を整理し、乘法九九（6, 7, 8, 9, 1の段）について学習するという単元のめあてをもたせるとともに、簡単な学習計画を立て、単元学習への見通しと意欲をもてるようにする。

展開においては、図や既習の乗法のきまりを使って自力で九九構成したり、それを通して多様なきまりを見つけたりする。その際、自分の考えを図や式、言葉で表現しながら話し合う中で、乗法の性質やきまり、構成の仕方についての理解をいっそう深められると考える。

終末においては、ものの数の求め方や乘法九九を総合的に活用し、工夫して問題をつくったり、解決したりすることを通して、九九の理解を深め、進んで用いようとする態度を育てたい。

3 単元目標

- 乘法九九のよさに気づき、ものの個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。
- 乘法について成り立つ性質を用いて、乘法九九の構成の仕方について多様に考えることができる。
- 乘法九九（6, 7, 8, 9, 1の段）を構成し、確実に唱えることができる。
- 乘法について成り立つ性質、乗法のきまりや倍の意味について理解できる。

※見え方と学習場面の実態

		見え方	支援	
A	児	<p>○右 0.2, 左は測定不可能。 ○最大視認力は、0.9 程度（眼前 3, 4 センチで測定）。 ○左眼は光りや物陰を捉える程度の視力であり、ほぼ右眼を使って生活している。 ○遠くを見る時は、単眼鏡（6 倍）を使用。 ○18 p の文章を 200 文字／分で読む。</p>	<p>○読み、書きをする場合は、姿勢が悪くなるので書見台を起こす。 また、手元が暗くなるので電気スタンドをつける。 ○学習プリントは、通常学級と同じものを使用する。 ○板書や発表の様子、掲示物などで見えにくいときは、単眼鏡で確認する。 ○席は、中央が見やすいように左寄りに配置する。 ○見直しの声かけが必要である。</p>	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>考えをつくる場</th> <th>考えを高め合う場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができる。早く仕上げるために操作や書くスピードが速いので雑になりがちである。そのことでキーワードとなる言葉を書き忘れていくことがある。</td> <td>○自分の考えを進んで説明することが多く、分かりやすく説明できているが、表現が不十分なときがある。既習との類似点・相違点に気づいて発表することができる。</td> </tr> </tbody> </table>		考えをつくる場
考えをつくる場	考えを高め合う場			
○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができる。早く仕上げるために操作や書くスピードが速いので雑になりがちである。そのことでキーワードとなる言葉を書き忘れていくことがある。	○自分の考えを進んで説明することが多く、分かりやすく説明できているが、表現が不十分なときがある。既習との類似点・相違点に気づいて発表することができる。			
B	児	<p>○右 0, 左 0.2。 ○最大視認力は、0.6（眼前 4, 5 センチで測定）。 ○右眼は全く見えておらず、左眼を使って生活している。遠くを見るときは、0.1 程度である。 ○遠くを見る時は、単眼鏡（6 倍）を使用。 ○18 p の文章を 199 文字／分で読む。</p>	<p>○読み、書きをする場合は、姿勢が悪くなるので書見台を起こす。 また、手元が暗くなるので電気スタンドをつける。 ○学習プリントは、通常学級と同じものを使用する。 ○板書や発表の様子、掲示物などで見えにくいときは、単眼鏡で確認する。 ○席は、中央が見やすいように右寄りに配置する</p>	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>考えをつくる場</th> <th>考えを高め合う場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができるが、なかなか既習を生かして自分の考えをつくれないので、つくるのに時間がかかる。</td> <td>○自分の考えに自信をもつと進んで説明したり、既習との類似点・相違点に気づいて発表したりすることができる。</td> </tr> </tbody> </table>		考えをつくる場
考えをつくる場	考えを高め合う場			
○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができるが、なかなか既習を生かして自分の考えをつくれないので、つくるのに時間がかかる。	○自分の考えに自信をもつと進んで説明したり、既習との類似点・相違点に気づいて発表したりすることができる。			
C	児	<p>○右眼眼鏡装用時 0.017, 左眼は 0。 ○最大視認力は、0.1（眼前 1 センチで測定）。 ○重度の弱視児なので黒板を見る場合は、拡大読書器とビデオカメラをつなげ、大事なポイントだけを拡大し、映して見るようにしている。 ○30 p の文章を 110 文字／分で読む。</p>	<p>○読み、書きをする場合は、姿勢が悪くなるので書見台を起こす。それでも見えにくいときは拡大読書器を活用する。また、手元が暗くなるので電気スタンドをつける。 ○学習プリントは、フォント 26 p, 罫線 2.25 で作成したものを使用する。 ○板書や友達の発表の様子、掲示物などの見えにくい時は、拡大読書器で確認する。 ○自分の考えを説明する時に見えにくさにより、不十分な時は教師が補足している。</p>	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>考えをつくる場</th> <th>考えを高め合う場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができ、既習を生かして自分の考えをつくることができるが、見え方が厳しいので書くことに時間がかかる。学習中は、視覚以外の諸感覚も利用して理解するようにする。</td> <td>○自分の考えを進んで説明することが多く、分かりやすく説明できるが、また既習との類似点・相違点に気づいて発表することができる。</td> </tr> </tbody> </table>		考えをつくる場
考えをつくる場	考えを高め合う場			
○自分なりの考えをつくるために、「考えのもとカード」や「かき方のわざカード」の中から必要なカードを選ぶことができ、既習を生かして自分の考えをつくることができるが、見え方が厳しいので書くことに時間がかかる。学習中は、視覚以外の諸感覚も利用して理解するようにする。	○自分の考えを進んで説明することが多く、分かりやすく説明できるが、また既習との類似点・相違点に気づいて発表することができる。			

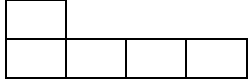
4 指導計画 (全19時間)

	第1時	第2時	第3時	第4時
目標	◎既習と未習を整理して、本単元の学習に関心をもち、学習課題と学習計画をつくる。 (関・意・態)	◎乗法について成り立つ性質を用いて、6の段の九九の構成の仕方を考える。 (数考)	◎6の段の九九を理解し、適用することができる。(表・処)	◎6の段の九九を記憶し練習問題を解いて適用を図る。 (表・処)
型	プロローグの場	数理獲得型	数理活用法	習熟型
学習活動と内容	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <p>めあて 「かけざん(2)」でどんなことを学習するのか考えよう。</p> <p>2 前単元「かけ算(1)」の学習で学んできたことをふり返り、既習事項について話あう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つ分の数×いくつ分=ぜんぶの数 かけ算の答えの求め方(かけられる数をかける数の分だけたす) 5, 2, 3, 4の段の九九のつくり方(同数累加, かけられる数をたす) <p>3 本単元のめあてを見いだし、学習計画を立て、単元の学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> かけ算についての既習と未習の内容の整理 <p>たんげんのめあて 6, 7, 8, 9, 1のだんの九九のつくり方を考えて、おぼえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書をもとに教師と共に学習計画を立てる。 <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>もんだい 1はこ6こずつ入ったアイスクリームのはこが、□はこあります。 アイスクリームは、ぜんぶで何こありますか。</p> <p>めあて 6のだんの九九をくふうしてつくろう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』</p> <p>◎6の段の九九の構成の仕方の想起</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つ前の九九の答えに6をたす かけられる数とかける数を入れ替える。 既習の揭示物・アレイ図の活用 <p>3 小集団による交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>①それぞれの考えの発表と付加・修正 ②考えの共通点と相違点に着目した交流 ③多様な、決まりの交流 ④6の段の九九の構成の仕方の一般化</p> <p>まとめ 6のだんの九九も、九九のひみつ(1つ前の九九の答えに6をたす・かけられる数とかける数を入れかえる)をつかってみるとよい。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <p>めあて 6のだんの九九をおぼえよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『考えをつくる場』</p> <p>◎6の段の九九の暗唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 順序よく唱える 反対から唱える ばらばらに唱える カードを使ったゲーム形式の練習 <p>◎6の段の九九の文章問題の解き方</p> <ul style="list-style-type: none"> かけ算の立式 九九を使った問題解決 <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>めあて 6のだんの九九をつかっているいろいろなもんだいを考えよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』</p> <p>3 交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>◎6の段の九九の文章問題の解き方</p> <ul style="list-style-type: none"> 立式の根拠の話し合い 九九の有用性への気づき <p>まとめ 6のだんの九九のひみつ(前の九九に6をたす・かけられる数とかける数を入れかえる)をつかってみるとよい。</p> <p>4 たしかめ問題をして、学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>

	第5時	第6時	第7時	第8時
目標	◎乗法について成り立つ性質を用いて、7の段の九九を構成の	◎7の段の九九の仕方を理解し適用することができる。	◎7段の九九を記憶し、練習問題を解いて適用を図る。	◎乗法について成り立つ性質を用いて、8の段、9の段の九九

標	仕方を考える。(数考)	(表・処)	(表・処)	を構成の仕方を考える。(数考)
型	数理獲得型	数理活应用型	習熟型	数理獲得型
学 習 活 動 と 内 容	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>もんだい 1 ふくろに7こずつ入ったみかんが、□ふくろあります。 みかんは、ぜんぶで何こありますか。</p> <p>めあて 7のだんの九九をくふうしてつこう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○7の段の九九の構成の仕方 ・2～6の段九九の構成の仕方の想起 ↓ ・1つ前の九九の答えに7をたす ・かけられる数とかける数を入れかえる ・5の段と2の段、4の段と3の段の組み合わせでつくる ・既習の揭示物・アレイ図の活用 ・3 交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。 ①それぞれの考えの発表と付加 ・修正 ②考えの類似点と相違点に着目した交流 ③多様な決まりの交流 ④7の段の九九の構成の仕方の一般化</p> <p>まとめ 7のだんの九九も九九のひみつ(1つ前の九九の答えに7をたす・かけられる数とかける数を入れかえる)をつかっているとよい。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <p>めあて 7のだんの九九をおぼえよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『考えをつくる場』 ○7の段の九九の暗唱 ・順序よく唱える ・反対から唱える ・ばらばらに唱える ・カードを使ったゲーム形式の練習</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>めあて 7のだんの九九をつかっていろいろなもんだいを考えよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』</p> <p>3 交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。 ○7の段のかけ算の文章問題の解き方 ・立式の根拠の話し合い ・九九の有用性への気づき</p> <p>まとめ 7のだんの九九をつかって考えると、かけ算のもんだいを、はやくせいかくにとくことができる。</p> <p>4 たしかめ問題をして、学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>もんだい 1さらに8こずつ入ったくりが、□さらあります。くりは、ぜんぶで何こありますか。</p> <p>めあて 8のだんと9のだんの九九をくふうしてつこう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○8の段と9の段の九九の構成の仕方 ・2～7の段九九の構成の仕方の想起 ↓ ・1つ前の九九の答えに8や9をたす ・かけられる数とかける数を入れかえる ・8の段と9の段の分配法則 ・既習の揭示物・アレイ図の活用 3 交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。 ①それぞれの考えの発表と付加 ・修正 ②考えの類似点と相違点に着目した交流 ③多様な決まりの交流 ④8の段と9の段の九九の構成の仕方の一般化</p> <p>まとめ 8,9のだんの九九も九九のひみつ(1つ前の九九の答えに8や9をたす・かけられる数とかける数を入れかえる)をつかっているとよい。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>
	<p>○は考える内容</p> <p>○は考える方法</p>			

	第9時	第10時	第11時	第12時
目標	◎8の段と9の段の九九を記憶し、練習問題を解いての構成の仕方の適用を図る。 (表・処)	◎8の段と9の段の九九を記憶し、練習問題を解いて適用を図る。 (表・処)	◎乗法について成り立つ性質を用いて1の段の九九を構成する。 (数考)	◎倍の意味について理解することができる。 (知理)
型	数理活应用型	習熟型	数理獲得型	知識教授型

<p>学 習 活 動 と 内 容</p> <p>○は 考 え る 内 容</p> <p>・は 考 え る 方 法</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>めあて 8のだんと9の段の九九をおぼえよう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『考えをつくる場』 ○8の段と9の段の九九の暗唱 ・順序よく唱える ・反対から唱える ・ばらばらに唱える ・カードを使ったゲーム形式の練習</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>めあて 8のだんと9のだんの九九をつかっているいろいろなもんだいを考えよう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』</p> <p>3 交流を行って考えを共有し、本時の学習をまとめる。 ○8の段と9の段のかけ算の文章問題の解き方 ・立式の根拠の話し合い ・九九の有用性への気づき</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>まとめ 8のだんと9のだんの九九をつかかって考えると、かけ算のもんだいを、はやくせいかくにとくことができる。</p> </div> <p>4 たしかめ問題をして、学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>もんだい どんぐり人形を6こつくりまます。つまようじとどんぐりはそれぞれどれだけいらいますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>めあて 1のだんの九九をつかっておぼえよう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○2～9の段の九九の構成の仕方の想起 ↓ ・1つ前の九九の答えに1をたす ・かける数とかけられる数を入れかえる</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○1の段の九九の構成の仕方の一般化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>まとめ 1のだんの九九も九九のひみつ（1つ前の九九の答えに1をたす・かけられる数とかける数を入れかえる）をつかかってつくるとよい。</p> </div> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>もんだい □のテープの長さをもとにして、2つぶんの長さの色をぬりましょう。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>めあて 「ばい」のいみについてしろう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○「〇ばい」の意味と表し方 ・テープ図を使った作業的・操作的活動 ・パターンブロックの活用</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○「〇倍」の意味と表し方の具体化と一般化 ・テープ図を示しながらの全体交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>まとめ もとにする長さの2つぶん、3つ分…の長さのことを、2ばい、3ばい…という。</p> </div> <p>4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p>
--	--	--	---	--

	第13時	第14時	第15時	第16時
目標	◎ある量の何倍かを求めるときに、かけ算を用いることを理解する。 (表・処)	◎乗法と積の関係、乗法の交換法則について理解する。 (知・理)	◎九九に親しみ、いろいろな決まりを見つける。 (数・考) (発展)	◎乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深める。 (数・考)
型	数理活用型	数理獲得型	数理獲得型	数理活用型

学習活動と内容 ○は考える内容 ・は考える方法	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。	1 本時のめあてを見いだす。	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>もんだい</p> <p>アのテープは3cmです。カのテープは、アの2ばいの長さです。</p> <p>カのテープの長さは、何cmですか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>九九をつくったときに、つかったきまりをまとめよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>九九のひょうを見て、いろいろなきまりを見つけよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>もんだい</p> <p>切手はぜんぶでなんまいあるか、かけ算をつかってもとめよう。</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>かけ算をつかってカのテープの長さをもとめよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>切手の数を、いろいろなほうほうでくふうしてもとめよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>九九のひょうを見て、いろいろなきまりを見つけよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>切手の数を、いろいろなほうほうでくふうしてもとめよう。</p> </div>
	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○「もとにする長さの□ばい」のかけ算の式での表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープ図を使った作業的・操作的活動 ・パターンブロックの活用 <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「～の□ばい」の式化 ・テープ図を示しながらの交流 	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○九九の構成に必要な決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけられる数をたしていく（同数累加） ・かける数が1ふえると、答えはかけられる数だけふえる。 ・かけられる数とかける数を入れかえても答えは同じ ・○の段は他の2つの段を構成することによってできる <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○既習の九九の決まりの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの類似点と相違点に着目した交流 ・多様な決まりの交流 ・既習の掲示物・「考えのもとカード」 	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○九九表から見つけた九九の決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九九表をもとにした、数の多様な見方 ・答えの一の位の数に着目した考え ・答えの十の位の数に着目した考え ・分配法則の基礎となる考え <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○九九表から見つけた九九の決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの類似点と相違点に着目した交流 ○九九表の拡張(かけられる数が10, 11, 12…) <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○ひとまとまりを縦に見る考え</p> <p>○ひとまとまりを横に見る考え</p> <p>○自分で任意のまとまりをつくる考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドット図の活用 ・既習内容の掲示物 <p>3 考えを共有し、本時の学習のまとめをする。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○乗法九九の総合的な活用仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えの交流 ・考えの類似点と相違点に着目した交流
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>何ばいかをもとめるときも、かけ算のしきをつかうとよい。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>1～9までのぜんぶのだんに、同じきまり（前の九九に答えにかけられる数をたす・かけられる数とかける数を入れかえる）がある。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>1～9までのぜんぶのだんに、同じきまり（前の九九に答えにかけられる数をたす・かけられる数とかける数を入れかえる）がある。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>まとまりをつくって、かけ算をつかうとよい。</p> </div>	
4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。	4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。	4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	

	第17時	第18時	第19時
目標	◎乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深める。（数考）	◎学習内容を確実に身に付ける。	◎本単元の学習をふり返り、獲得した数理を活用して問題づくりを行い、学習してきたことの満足感を味わう。 (数考) (関・意・態)
型	数理活应用型	習熟型	エピローグの場

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習活動と内容</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">○は考える内容</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">・は考える方法</p>	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もんだい はこの中のチョコレートはせんぶでどこにありますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて チョコレートの数を、いろいろなほうほうでくふうしてもとめよう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○まとまりをつかってかけ算を使う考え ○移動してまとまりをつくる考え ○全体からない部分をひく考え ・既習の掲示物 ・ドット図の活用</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習のまとめをする。 『考えを高め合う場』 ○乗法九九の総合的な活用の仕方 ・多様な考えの交流 ・算数のよさの観点（かんたん・わかりやすい・いつでも使える）に着目した交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ まとまりをつくって、かけ算をつかうとよい。</p> </div> <p>4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて かけ算（2）の学しゅうをふりかえり、かけ算のれんしゅうもんだいをとこう。</p> </div> <p>2 練習問題を解いたり、かけ算のゲームを行ったりして学習内容の習熟を図る。 ○九九のきまり ○「倍」の意味 ○九九の暗唱 ・教科書「力をつけよう」「たしかめよう」の解決 ・九九カードによるゲーム</p> <p>3 答え合わせを行うことで、自分の学びをふり返る。</p> <p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 学習したことをつかって、みのまわりからいろいろなもんだいをつくろう。</p> </div> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○かけ算のもんだいづくり ・かけ算の式の意味 ・九九の決まり ・情景図の活用</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習のまとめをする。 『考えを高め合う場』 ○かけ算の文章問題の解き方 ・立式の根拠の話し合い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 「～ずつのいくつ分」をさがすと、みのまわりからたくさんのかけ算のもんだいをつくることができる。</p> </div> <p>4 学習の感想を書き、本単元の学習をふり返る。</p>

公開学習 1 本時（5 / 19 数理獲得型）

5 本時の目標

- ◎ 乗法について成り立つ性質を用いて、7の段の九九を構成の仕方を考える。（数考）
- 7の段の九九の構成の仕方を理解する。（知・理）

6 本時指導の考え方

本時は、九九の構成や決まり（1つ前の九九の答えに1つ分の数をたす、1つ分の数をたしていく、かけられる数とかける数を入れかえて既習の九九を使う、アレイ図から既習の段を2つ組み合わせる）を活用して、7の段の九九を構成する活動を通して考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

「見いだす」過程では、情景図を用いて問題を提示し、問題文に印をつけて意味がとらえられるようにする。立式後、掲示物をもとに既習との違いを明確にしながためあてを把握させる。

「つくる」過程における『自分の考えをつくる場』では、7の段の構成を、既習を駆使しながら考えることができるようにし、解決の見通しを一人一人がしっかりと見つことができるようにする。そのために、前時で学習した九九の決まりを掲示しておくことで見通しをもつための手がかりとできるようにする。また、それぞれの見え方に合わせた「考えのもとカード」「かき方のわざカード」の中から使えるカードを選択し、どのような手順で考えをつくれればよいのかを整理できるようにする。予想される考えは、「ア）1つ前の九九に7をたす」、「イ）かけられる数とかける数を入れかえる」、「ウ）5の段と2の段や3の段と4の段に分ける」の3つがあげられる。

『考えをつくる場』の個別の支援

A 児	B 児	C 児
<ul style="list-style-type: none"> ○表現が不十分な時 ・見直しをするように促す。 ○早くつくり終えたとき ・別の方法を学習プリントに記入し、考え方を広げ、定着できるようにする。 ○「考えのもとカード」「かき方のわざカード」 ・手元で確認できるように、携帯用を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なかなか考えがつかれない時 ・既習の学習プリントを使ってのつくり方を思い出せるようにする。 ・アレイ図をもとに考えるようにする。 ○「考えのもとカード」「かき方のわざカード」 ・手元で確認できるように、携帯用を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習プリント ・フォント26p、罫線2.25で作成したものを使用する。 ○早くつくり終えたとき ・別の方法を学習プリントに記入し、考え方を広げ、定着できるようにする。 ○「考えのもとカード」「かき方のわざカード」 ・携帯用を用意し、拡大読書器で確認する。

自分の考えをつくることができたなら、「ミニ発表コーナー」にて教師に説明する。そのために説明の仕方をもとに助言をしていく。このことで、それぞれが自分の考えに自信をもったり、付加・修正したりすることができる。

「共有する」過程における『考えを高め合う場』では、7の段の九九の構成の仕方を交流を通して共有することができるようにしたい。

交流では、「話し合いのすすめ方カード」をもとに行う。その際、それぞれの児童の考えごとに発表し、それぞれの考えの関連性を検討するために「似ているところ」「ちがうところ」の観点で交流を行う。続いて、考えの有効性を検討するために、どの考えが「かんたん」「わかりやすい」「いつでも使える」かの交流を行い、どの考えもそれぞれのよさがあることを実感できるようにする。

『考えを高め合う場』の支援

- どのような視点で交流していいのかわからない場合は、学習プリントや既習の掲示物をもとにして振り返るように促す。

そして、「1つ前の九九の答えにかけられる数をたす」「かけられる数とかける数を入れ替えても答えは同じになる」という2つの考えを7の段の九九の構成の仕方を一般化できるようにする。

「まとめる」過程では、7の段の構成の仕方について分かったことを、見直しをし、見通しの時に用いた「考えのもとカード」とつないで、自分の言葉でまとめる。

7 準備

教師：情景図、既習学習の掲示物、拡大読書器、ビデオカメラ、書見台付き机、電気スタンド、

「考えのもとカード」、 「かき方のわざカード」

児童：前時までの学習プリント、携帯用の「考えのもとカード」・「かき方のわざカード」

8 学習展開

過程	学習活動と内容	○学習を促すための具体的な手立て ※見えにくさを補うための具体的な支援
見 い だ す ／ つ く る	<p>1 本時の学習問題を把握し、めあてを見いだす。 (1) 本時の学習問題について話し合う。 もんだい 1ふくろに 7こずつ 入ったみかんが、 □ふくろあります。 みかんは、ぜんぶで 何こありますか。</p> <p>(2) 根拠を明確にしなが、立式する。 (3) 前時までの学習問題と比較し、めあてを見いだす。めあて 7のだんの 九九を くふうして つくろう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 自分の考えをつくる。 【見通し】</p> <p>「考え方のもとカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かけざんのひみつ②」1つ前の九九の答えにかけられる数をたす ・「かけざんのひみつ③」かけられる数とかける数を入れかえても答えは同じ ・「かけざんのひみつ④」かけられる数を2つに分けて、学しゅうした九九をつかう ・「学しゅうしたけいさんをつかて」 <p>「かき方のわざカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言ばでせつめいする ・アレイ図 <p>【予想される考え】</p>	<p>○ 問題場面を把握しやすいうに、教師の演示で7こずつ入れる様子をわかりやすくする。 ※ 読み書きをするときは、書見台を立てるようにする。 ※ A児、B児は、単眼鏡を合わせる。 C児は、拡大読書器を準備する。 ○ 言語的表現をもとにした立式の根拠を書くように促す。 ※ 学習プリントは、プリントばさみにはさむようにする。 ※ それぞれの見え方にあわせた学習プリントを使用する。 ※ A児、B児は、板書内容を単眼鏡で確認をする。 ※ C児は、板書内容を拡大読書器からの映像で確認する。</p>
／ 共	<p>ア) 1つ前の答えに7をたしていく</p> <p>$7 \times 1 = 7$ $7 \times 2 = 14$ ($7 + 7 = 14$) $7 \times 3 = 21$ ($7 + 7 + 7 = 21$) $7 \times 4 = 28$ ($7 + 7 + 7 + 7 = 28$)</p>	<p>イ) かけられる数とかける数を入れかえても答えは同じ</p> <p>$7 \times 1 = 7$ $7 \times 2 = 14$ ($2 \times 7 = 14$) $7 \times 3 = 21$ ($3 \times 7 = 21$) $7 \times 4 = 28$ ($4 \times 7 = 28$)</p>
有 す ／ ま と め	<p>ウ) 「5の段と2の段」「3の段と4の段」に分ける</p> <p>$7 \times 1 = 7$ ($5 \times 1 = 5$ $2 \times 1 = 2$ $5 + 2 = 7$) ($4 \times 1 = 4$ $3 \times 1 = 3$ $4 + 3 = 7$) $7 \times 2 = 14$ ($5 \times 2 = 10$ $2 \times 2 = 4$ $10 + 4 = 14$) ($4 \times 2 = 8$ $3 \times 2 = 6$ $8 + 6 = 14$) $7 \times 3 = 21$ ($5 \times 3 = 15$ $2 \times 3 = 6$ $15 + 6 = 21$) ($4 \times 3 = 12$ $3 \times 3 = 9$)</p> <p>(2) 「ミニ発表コーナー」で教師に説明する。</p> <p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』</p> <p>【交流活動の流れ】</p> <p>①代表児が、ア→イ→ウの順に発表する。 ②それぞれの考えの「にているところ」「ちがうところ」を出し合う。 ③どの考えが「かんたん」「わかりやすい」「いつでも使える」のかについて話し合い、よさを見つける。 ④既習の2から6の段の九九との共通点を見だし、構成の仕方を一般化する。</p>	<p>○ 自分の考えがわかりやすく説明できるように、説明の仕方の掲示資料をもとに助言する。 ※ それぞれの見え方に合わせた「考え方のもとわざカード」「かき方のわざカード」を使用する。 ※ C児は、A児やB児が発表している様子は拡大読書器からの映像で確認する。</p>
る	<p>まとめ 7のだんの九九も、九九のひみつ(1つ前の九九の答えにかけられる数をたす・かけられる数とかける数を入れかえる)をつかてつくとよい。</p>	<p>○ 書く観点を助言し、本時のめあてにふり返って、学習の感想をまとめるようにする。</p>
	<p>4 学習の感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>○ 書く観点を助言し、本時のめあてにふり返って、学習の感想をまとめるようにする。</p>